

学校名：大阪教育大学附属高等学校平野校舎

学年：1年

名前：岡本 葉奈

題名：形を変えて戻ってくる税金

あなたは、税の意義と役割を聞かれたとき、何と答えるだろうか。迷わずこれだと答えられるだろうか。私は言葉を詰まらせてしまった。断言できるほどの自信はなかったのだ。私たちの身近にある税金。生活する上で切っても切り離せない税金。ぜひここでその意義と役割を考えたい。

税金の使われ方は多岐にわたる。社会保障費や国債費、公共事業費、防衛費、経済協力費。他にもたくさんある。中でも今回、私は経済協力費に焦点を当てようと思う。

私は今年の八月に訪問したJICA関西で、ODAについて知った。ODAとは、開発途上国の経済や社会の発展、国民の福祉向上や民生の安定に協力するために行われる政府または政府の実施機関が提供する資金や技術協力のことである。そしてこの資金の一部が、税金でまかなわれているのである。今でこそODAを提供する側の日本だが、第二次世界大戦後の復興時には、ODAを受け取る側だったことはご存知だろうか。二〇一一年の東日本大震災でも、開発途上国を含むあらゆる国から多くの援助があった。このように、諸外国からのODAがあったからこそ今の日本があると言っても過言ではない。ODAが、日本と諸外国とをつないだのである。改めてこのような援助の一部が税金でまかなわれていることを考えたとき、あなたは何を感じるだろうか。私は嬉しく感じた。払った税金は、形を変えて私たちの元に戻ってきてくれているのだから。私は思う。国家は、たくさんの人から集めた税金で、大きなお金だからこそできることを、私たちのためにしてくれるのだと。

納める税金には、所得税、法人税、消費税、住民税、事業税、固定資産税、自動車税など、ここに挙げただけでもたくさんの種類がある。この国で生活する以上、私たちはたくさん税金を払わなければならない。しかし、これまでとはなんだか見え方が変わったような気がしないだろうか。この払った税金が私たちのために使われていると思うと、今までは一割の消費税も、感謝の意を込めて払える気がする。払うだけの価値があると、私は思う。

今回注目したのは経済協力費だった。しかし他の税金の使われ方にも、ここで考えたことと同じことが言えると思う。身近な社会保障費は私たちの健康や生活を守るためであり、国債費は国債を返済するためである。公共事業費は私たちが利用する道路や住宅などを整備するためであり、防衛費は国の防衛のためである。

私たちから見えているのは、税金を払う私たちの姿だけかもしれない。しかし、税金にはゆくえがある。そのゆくえを、私たちは理解できていただろうか。こうして税の意義と役割を考えた今、自分の払う税金が、いつもに増して輝いて見える。私たちはもっと税金に、税金のゆくえに関心を寄せ、税の意義と役割について考えるべきではないだろうか。